

かけだしの頃

今だから話せるゲンバの失敗

11

振り返ると、若い頃は思い込みで仕事を進めてしまったために、失敗することが多かったような気がします。これからお話するのも、その類の初歩的な失敗です。

あれは入社五年目、あるニュータウン内の歩行者専用道路の新設工事でした。斜面を切り崩し、盛土して、高低差約三十mのゆるやかにカーブをくり返す遊歩道をつくることになっていました。いろは坂のような曲がりくねった坂道をイメージしていただければいいですかね。

規定では道路幅が三m、道路の勾配は七%以下と決められていて、渡された図面にはセンターラインに勾配七%とだけ指示されていたんです。だから、私はセンターの勾配が七%以下になるように道路の位置も決めていきました。

それから、さっそくブルドーザーを使って、粗造成しながら歩道をつくっていったんです。とこ

ろが、仕事を進めていくとやけに勾配がきついつころがある。「ちゃんと測量もしたのに」と不思議に思ったのですが、あらためて道路全体を眺めてみて、ハッと気づきました。

直線の道路ならセンターの勾配は均一になりませんが、曲がりくねっているのでインコーナーとアウトコーナーができる。当然、インコーナーは距離が短い分、勾配がきつくなります。私はそれに気づいていなかった。つまり、インコーナーは七%以上のきつい勾配になり、逆にアウトコーナーは七%以下のゆるい勾配になってしまったんです。そもそも頭の中の図面だけで仕事を進めてしまったために、物事を立体的に捉えるという意識が欠けていたんですね。最初に自分でインコーナー、アウトコーナーを含む三本の縦横断図を描いて、まず、インコーナーが七%以下になるように計画すればこんなことは起きなかったのです

株式会社富士土木 工事部
工事部長

塚田 優

昭和50（1975）年に株式会社富士土木に入社。道路工事、河川工事などを経て現職。



が……。

幸いに舗装前の段階で気づいたので、すぐにやり直し、大事には至りませんでした。それ以来、道路計画の際は、左右の計画高を出し、縦横断図も作成して、インコーナーになる部分の勾配を基準にセンターの勾配も決めるようになりました。

確かにセンターの勾配は七%以下になっていたのですから、渡された図面どおりといえば図面どおりだったかもしれません。でも、使用する人の身になり、生活者が利用しやすいものをつくることこそ私たちの使命ですから、簡単に妥協はできません。今はCADやCGもありますし、もしそれらや図面で理解できないときは模型をつくるなど、手を動かす”という原点に立ち返ることも大切だと思います。若い人たちには、逆に自分からよりいいものを提案するぐらいの気持ちで仕事に臨んでほしいと思います。